Project No.
33 | 教育・福祉

“誰ひとり学びから取り残さない”子ども支援DX化プロジェクト

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 認定特定非営利活動法人カタリバ

コンソーシアム構成員 宇和島市｜新居浜市

目 的

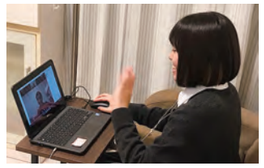
学びの機会がない子どもに対して、地域との連携によって教育格差を埋めるオンライン支援プログラムを届けることで、”誰ひとり学びから取り残されない社会”を目指す。

課 題

教育格差を埋めるための地域の子ども支援においては、3つの構造的課題がある。1つ目は、縦割り組織による教育と福祉の分断により、子どもと保護者の情報をそれぞれ違う組織が保有している点。2つ目は地域のマンパワーのみによる支援の限界。3つ目は、移動手段が限られ地域資源につながるハードルが高いという点である。

解決策

教育・福祉と連携し、支援が必要な子どもの見つけ出しから支援への接続の仕組みを構築。支援に接続された子ども・保護者に対して、オンラインを活用した対話や学習プログラムを提供することで、地域のマンパワーだけに頼らないオフラインとオンラインでのハイブリットな子育て支援の体制作りを実現。



検証項目

教育福祉の垣根を超えた情報連携
地域の教育・福祉横断での情報連携の体制づくり

家庭へのアウトリーチの事例づくり
地域のみでは接点が取れていない家庭へアウトリーチ

各施策（チャネル）で見つけ出した子どものとの連携
カタリバの支援を通じて地域と家庭のコミュニケーションを促進

家庭の継続利用率 支援家庭の来期継続利用率

取り組み内容

支援が必要な子どもを見つけ出し、支援に接続するまでの仕組みを構築
学校経由の周知や福祉部で把握している保護者の支援情報から支援が必要な子どもの見つけ出しを実施。見つけ出し後、カタリバがオンライン上で子どもに直接誘い出しを行っていくことで、参加への意欲を灯したり、動画などを使って参加へのイメージを膨らませ、参加ハードルを下げ支援への接続を促す。

オンラインを活用した対話プログラムや学習プログラムの提供
子どもに対して、週1回ナナメの関係のスタッフとの対話の場やEdtech教材企業から提供いただくオンライン学習ツールなどを取り入れた講座を提供。保護者には、月1回子育ての悩みなどを気軽に話せる場を提供。家庭との家庭の困り感に応じて、各種支援機関やお住まいの地域の行政サービスに接続することで、必要なサポートへつなぐ。

成果・結果

地域との情報連携数
定期的な検討会議を行うことで、福祉側では家庭全体を捉えた効果の高い支援方針を立てられるようになり、教育側ではこれまで拾えなかった家庭での困りごとを把握することができた。結果、福祉側・学校側それぞれが支援が必要な子どもの見つけ出し・誘い出しを実現。

家庭へのアウトリーチの事例数
相談員やケースワーカーが定期訪問するも保護者支援が中心なため、不登校の問題を抱えている子どもには会いにくく支援への接続ができていなかった家庭に対して支援を届けることができた。

各施策（チャネル）で見つけ出した子どものとの連携
保護者が自治体担当者にカタリバでの話を共有するなど、カタリバが地域と家庭のコミュニケーションのきっかけとなるケースが生まれている。また、発達特性を持つ子どもに対して、学校などの集団生活の場での個別対応には限界があるなかで、「カタリバは個人のペースで進めることができるのでありがたい」といった声が学校側からも届いている。

家庭の継続利用率
今期カタリバの利用全家庭が、来季も利用を継続。

今後の見立て・意向

今後4つの取り組みを実施。オンラインを活用したアウトリーチの仕組み構築の強化。より多くの子どもに支援を届けるには、先生の協力体制も鍵となる。先生が集まる場に参加し、事例の紹介や理解促進を行っていく。オンラインリソースの活用によってより包括的に家庭を捉える支援の実現。工数のかかる定期的な伴走をオンラインで担うことで、地域の家庭訪問回数などを削減することができ、必要なタイミングでの家庭訪問や進路・学習に関する支援に集中することができる。オンラインでチャレンジのハードルを下げ、子どもを地域の資源へアウトリーチしていくための支援。オンラインによってチャレンジのハードルを下げ小さな成功体験を重ねることで、成功体験を自信に地域社会にも参加していけるよう後押ししていく。オンラインの活用によって子どもの支援の選択肢を増やしていくことで個別最適な支援の実現。不登校やヤングケアラーなど様々な困難を抱える子どもたちに対して特性に寄り添った学びを届ける。

取得データ

現在、子どものアウトカムデータを取得中。

データ活用による考察・示唆

オンライン・オフラインそれぞれにおいてできることを組み合わせたハイブリットな支援であれば、これまで支援の手から取り残されていた子どもにまで寄り添った支援の手を伸ばし、”誰ひとり学びから取り残さない愛媛県”の実現に寄与できるのではないかと考える。

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.